

報道関係各位

件 名 「飯能村絵図」の飯能市指定有形文化財（歴史資料）指定 について

1 概要

飯能市教育委員会では、平成30年6月29日（金）開催の飯能市教育委員会定例会における議決を経て、飯能市所有「飯能村絵図」を第76号飯能市指定有形文化財（歴史資料）に指定しました。

飯能村絵図は、武蔵国高麗郡飯能村全域が1/600の縮尺で正確に描かれた、天保13年（1842年）に完成したとされる縦横約3メートルの極めて大きな絵図で、「飯能」村の近世後期の様子を知ることができるものです。

また、この貴重な飯能村絵図の50%縮尺のレプリカは、飯能市博物館に展示されています。

2 飯能村絵図について

【員 数】1点

【所在の場所】飯能市飯能（飯能市立博物館きつとす）

【構造・形式】縦3.12メートル、横3.73メートル

【年 代】天保13年（1842年）

- ・飯能村絵図は、武蔵国高麗郡飯能村全域が1/600の縮尺で正確に描かれた、きわめて大きな絵図です。
- ・川や沢などは青、道は赤、畑は黄、水田は灰、山は緑、屋敷地は白に塗り分けられ、当時の土地利用の様子がうかがえます。
- ・大通りを中心とする道（往還）や能仁寺、諏訪明神社（現、諏訪八幡神社）などの寺社、愛宕山（現、天覧山）や多峯主山の様子なども忠実・精緻に描かれています。
- ・由来書によると、文政8年（1825年）に製作に取りかかり、3年後の文政11年（1828年）に元となる草稿が作成され、その後、修正を加えて発起から17年後の天保13年（1842年）に完成したようです。

- ・製作に中心的に関わった人物は、「絵図師」とある飯能村名主の大河原又右衛門と、高麗郡楡木村名主の清兵衛で、由来書の最後にほかの立会人と一緒に署名しています。

- ・現在の市（地方自治体名）の名称として付けられている「飯能」村の近世後期の様子を知ることができる唯一の絵図であり、その精細さは本市域に残されている他の村絵図と比較しても類を見ません。

- ・飯能村とともに市立てが行われていた久下分村、真能寺村の近世の様子を知ることができる絵図も数は少なく、市街地の歴史をうかがうことのできる絵図としても、大変貴重であるといえます。

担当者	生涯学習課長	大野
連絡先	TEL042-973-3681	